



商店街 × ワカモノ

商店街は、買い物や交流の場など、市民の暮らしを支える都市の重要な機能の一部です。本市には、大小さまざまな商店街が20以上あります。特に近鉄四日市駅周辺には、県下最大規模の商店街が広がり、本市を訪れる人を迎える“まちの顔”にもなっています。

価値観や生活スタイルの多様化により、商店街はその姿を変えてきました。そして現在、イベントの開催、居住者の増加などにより、にぎわいが生まれています。今回は、「商店街」×「ワカモノ」をテーマに、未来を担う高校生が見た商店街の姿や、高校生の力を生かした商店街活性化の取り組みをお伝えします。

商店街MAP



高校生のチカラ

商店街って…

若い人が少なくて静かなイメージ…

ここが惜しい! // もっとPRしたらいいのにもったいない

これ、面白い! // こんないい感じのお店あったんだ!

いろいろな人に知ってもらいたい!

「じゃあ、SNSで魅力を発信してみよう!」



商店街活性化に向けた取り組みのアイデア出し。 商店街を視察し、歴史や現状、課題を学びました。 広告代理店講師によるSNS活用の講義を受講。 商店街の数ある店舗から8店舗を選定し、現地取材。



撮影した写真や動画を加工し、添える文章を作成。 できた作品を店主に見せて確認してもらいました。

成果発表

諏訪公園で成果発表。完成した作品をInstagramに投稿して、商店街の魅力をPRしました。

高校生による魅力創出事業

本市が実施する「高校生による魅力創出事業」では、地域の将来を担う高校生の元へ商店街の店主などを講師として派遣。高校生は講師の指導を受け、課題研究の中でビジネススキルを習得しながら、高校生ならではの発想や感性を取り入れた研究成果を商店街や定期市などで発表します。街のにぎわいを創出することで、中心市街地の活性化に繋げることを目的として実施しています。

今年度は、四日市農芸高等学校販売情報コースの3年生が定期市の一つである塩浜市場の活性化を、また、四日市商業高等学校の3年生がシティマネジメント講座の中で商店街の活性化をテーマに課題研究に取り組みました。

ワカモノ目線で見えた商店街

▶ 講座を受講する前の商店街のイメージは

中西 夜は居酒屋の辺りがにぎやかだけれど、昼はシャッターが閉まっている店が多くて静かなところ。

杉野 昔から住んでいる地元の人が、ちょっと買い物に行く場所。若い人が行くイメージはなかったです。

▶ 今まで商店街に行くことはありましたか

杉野 歩いて通ったことはありますが、どんな店があるのかは知りませんでした。

▶ なぜこの講座を選びましたか

田中 将来ショップデザインに携わることが夢なので、校外の人と話す機会があり、店の良いところを見つけてもっとお客さんが来るようにするにはどうすればいいかを考える講座は、自分にぴったりだなと思いました。

岸本 商店街の活性化に貢献できればと思ったのと、コミュニケーション能力の低さが悩みだったので、その能力を向上させたいと思って選びました。

▶ 受講後に商店街のイメージは変わりましたか

杉野 思っていたより商店街の範囲が広く、通りがたくさんあって、いろいろな店があるのだと分かりました。あまり店の宣伝がされていなくて、みんなに知られていないのが惜しいと感じました。

▶ 印象に残っていることや発見したことは

中西 Chocolaterie 4のチョコシュークリームがすごくおいしかったです。それと、KAMON IGREKという写真館の店主がとても優しい人でした。お話しする中で「こう撮りたい」という店主の思いが伝わってきて、自分の成人式もここで撮ってほしいと思いました。

杉野 水谷仏具店の店主はとても話しやすく、「仏具・仏教のことなら何でも相談して」と言われたので、祖母の悩み事も相談できました。家族にも薦めたいです。

岸本 八百竹を取材して、野菜や果物が安くて新鮮な

四日市商業高等学校でシテイマネジメント講座を受講した田中綾萌さん、中西咲月さん、杉野朱音さん、岸本妃奈さん、金谷美旺さんにお話を伺いました。

理由は、市場から直接仕入れているからだと分かりました。レジで野菜をプレゼントして、次もお客さんに来てもらえるよう工夫していることも知りました。

金谷 スワサロンは店内も食器もレトロで、落ち着いた喫茶店でした。昔ながらの雰囲気味わえるのが商店街の魅力だと思いました。

▶ 工夫したことは

田中 Instagramは“映え”が大事で、最初に出てくる写真が良くないと次の写真まで見てもらえないので、最初にその店のポイントが伝わるようにしました。

岸本 アカウント全体で雰囲気が統一されている方が「見たいな」と思えるので、統一感を意識しました。

▶ 大変だったことは

中西 コロナ禍で商店街に行けない期間があり、作業が進まなくて大変でしたが、画像の加工や文字入れ、キャプションの文章作成など、分担して作業しました。

金谷 普段は客目線で店を見ますが、今回は視点を変えて店側から客観的にお客さんを見て、どうすればお客さんが来てくれるかを考えるのが大変でした。いろいろな方向から物事を見ることが大事だと思いました。

▶ どんな商店街になってほしいですか

岸本 自分たちの年代の人でも来るような商店街になるといいと思います。写真映えるかわいい外装の店ができるとうれしいです。

▶ 同世代に伝えたいことは

田中 ずっとある店も初めて行ったら“新しい店”。発見するのが楽しかったので、みんなにもそんな体験があればいいなと思います。普段通らない道にちょっと入ってみると、いつもと違うものが見られて面白いですよ。

金谷 見た目は入りづらい店でも、中に入ってみると意外と面白いので、冒険気分で行ってみてほしいです。



四日市諏訪商店街振興組合 専務理事・水谷仏具店 店主

水谷武生さん

「高校生による魅力創出事業」では、高校生に商店街を案内しています。ただ道を通るだけでは「人が少ない」と思うだけですが、店の中に飛び込んで個性豊かな店主と話してみると、面白いと感じてくれます。私自身、高校生を案内したことがきっかけで、普段接点がなかった店主と交流が生まれたこともあります。次代を担う若い人たちが注目してくれる商店街であり続けたいと思うので、高校生が商店街に来てくれるのはうれしいですね。

コロナ禍で一時は人が全然いませんでしたが、今は少しずつ戻ってきました。ただ、目的がないと出掛けない習慣がついてきたようなので、ふらっとまち歩きを楽しめる商店街にしなければと思います。なので、今は感染状況が落ち着いているときに、イベントを開催しています。

これからの商店街は、商売ではない部分でいかに魅力を感じて来てもらえるかが大事だと考えています。ただ買い物するだけであれば、便利なショッピングセンターがありますね。居住者も増えたので、住みやすいまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。また、子どもたちが将来卒業するとき、企業への就職だけでなく、自分自身で何かやれるまちでありたいと思うので、若い人が出店しやすいような受け入れ態勢も整えていきたいです。

コロナに負けるな!

商店街の取り組み

令和2年8月、商店街組織や四日市商工会議所、楠町商工会、四日市商店連合会、四日市観光協会などによる「四日市飲食店等新型コロナウイルス感染症防止対策促進協議会」を発足しました。同協議会では、各構成団体の会員に対して、三重県の感染防止チェックリストを周知したり、三重県の補助制度を情報共有したりすることで、感染防止対策の徹底を図っています。また、感染防止対策を啓発するのぼり旗を作製して設置し、オール四日市で感染防止対策を徹底する機運を高めています。

各商店街が三重県指針に従って積極的に感染症対策に取り組んでいますので、ぜひ安心してお越しください。



四日市商店連合会 会長

森修平さん

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 商工課 ☎ 354-8175 FAX 354-8307

